樽前山の火山活動
－1999年10月～2000年１月－

Volcanic activity of Tarumaesan Volcano
－ October 1999 － January 2000 －

札幌管区気象台
苫小牧測候所
Sapporo District Meteorological Observatory, JMA
Tomakomai Weather Station, JMA

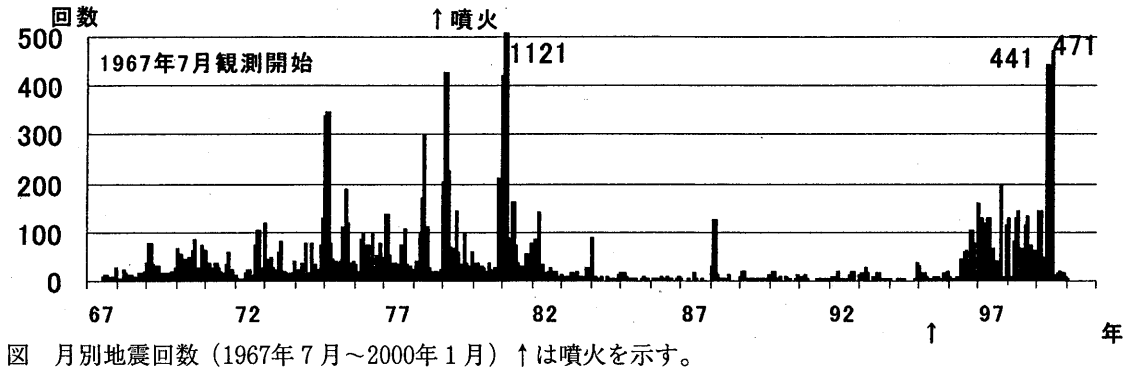
１．震動観測

第１図に1967年７月から2000年１月までの月別地震回数を示す。樽前山では1972年から1982年頃にかけて地震活動が活発であり、1978年、1979年、1981年に山頂火口原に位置するＡ火口で小噴火や降灰を伴う活動があった。その後1995年まで地震回数は少ない状態が続いていた。しかし、1996年６月頃から地震回数が増加し始め、1997年以降、月地震回数がしばしば100回を越えるようになり、増減を繰り返しながら活発な状態が続いた。1999年５月と７月にはそれまでで最も活発な活動があった（月地震回数はそれぞれ441回と471回）。しかし、その後は地震活動は低調となり、本期間、日回数は０～４回程度で推移した。

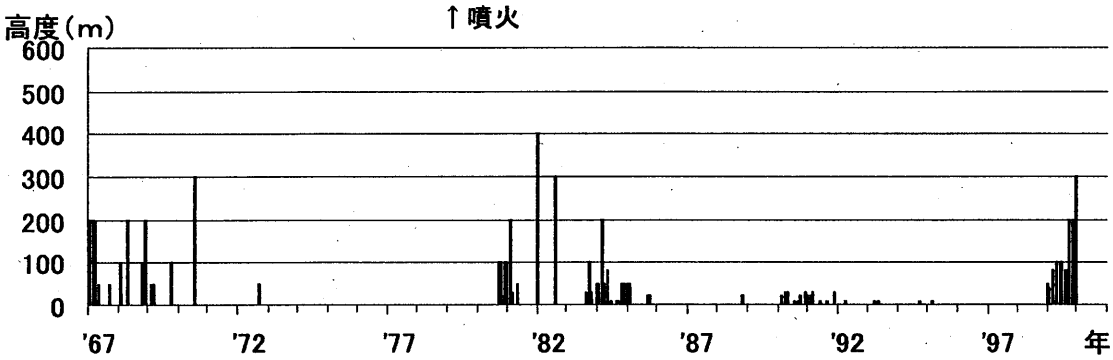
２．遠望観測・現地観測

第２図にドーム南西火口からの噴煙の月別最高高度（1967年～2000年１月）を示す。本期間、噴煙活動に大きな変化はなく、少量の噴煙が継続的に観測された。ドーム南西噴気孔群では変色域が拡大している。その他の火口からの噴煙の状況に大きな変化はなかった。

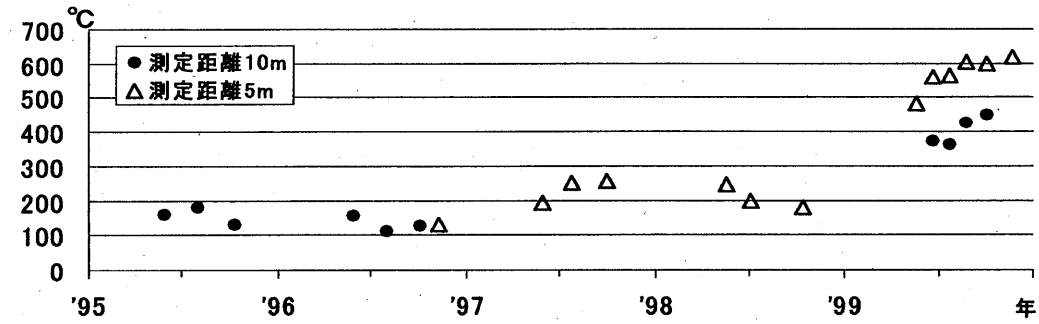
10月４、５日に現地観測を行った。Ａ火口では、赤外放射温度計によって５ｍ直近で600℃の温度を観測し、高温を維持していた。さらに11月22日には619℃と過去最高温度を観測し（第３図）、目視によるごく弱い赤熱現象を観測した。また、ドーム南西噴気孔群では変色域西側で噴気温度上昇（第４図）、噴気孔や変色域の拡大を観測した。ドーム南西火口では引き続き白色で刺激臭の強い活発な噴気を確認、火口東側内壁で硫黄の析出が見られ、火口西側内壁では変色域の所々に新たな噴気孔が出現。その他の観測点では大きな変化は見られなかった。



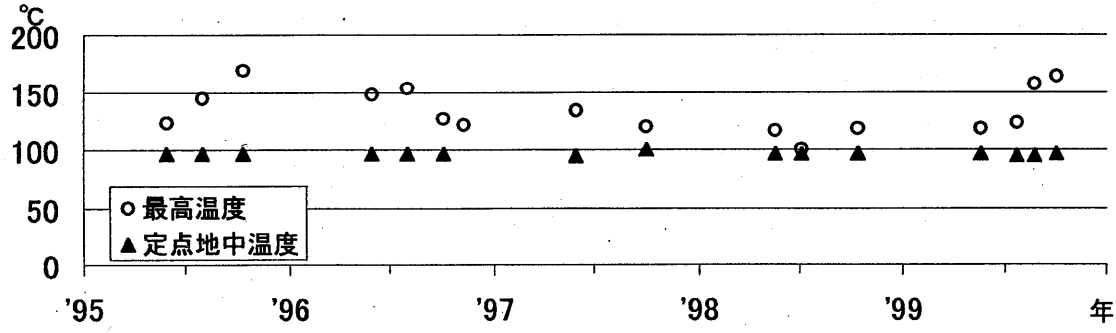
第1図　月別地震回数（1967年7月～2000年1月）↑は噴火を示す。
Fig. 1 : Monthly frequency of volcanic earthquakes from July 1967 to January 2000. ↑ indicates eruption.



第2図　ドーム南西火口の月別最高噴煙高度（1967年1月～2000年1月）↑は噴火を示す。
Fig. 2 : Monthly heighest volcanic plume from January 1967 to January 2000. ↑ indicates eruption.



第3図　赤外放射温度計によるA火口の温度（1995年～1999年）
Fig. 3 : Temperature variation of A crater measured by a portable Infrared Radiation Thermometer (1995－1999).



第4図　ドーム南西噴気孔群の温度（1995年～1999年）
Fig. 4 : Variations of thermometer in south-western fumaroles of lava dome at Tarumaesan (1995－1999).